

大学名

愛知教育大学

表題

「レジリエントな社会の構築」をめざした生活に対する総合的な認識と実践に資する家庭科の授業

特色ある取組



教育内容研究の視点を養う新聞作り授業



近年、災害や感染症の発生や流行をみると、阪神淡路大震災(1995)、SARSやMERSの流行(2003、2012)、新型インフルエンザの流行(2009)、東日本大震災(2011)と続き、現在、新型コロナウイルスの流行(2019～)は人類を脅かすパンデミックの様相を呈し、甚大化する災害と感染症は、**いかに生命と生活を守り、自然と調和した持続可能な社会へと変貌するかという現代的課題**を私たちに突きつけている。

このような現実を前に、教科教育法(家庭科)の授業では採択された科学研究費の研究課題「グローバル化が加速する現代日常生活の保健衛生・安全に関する実験・実習教材の開発」(2017-2019)と関連づけ、**パンデミックや災害などをテーマとした家庭科の授業開発やカリキュラム研究を進めている。**

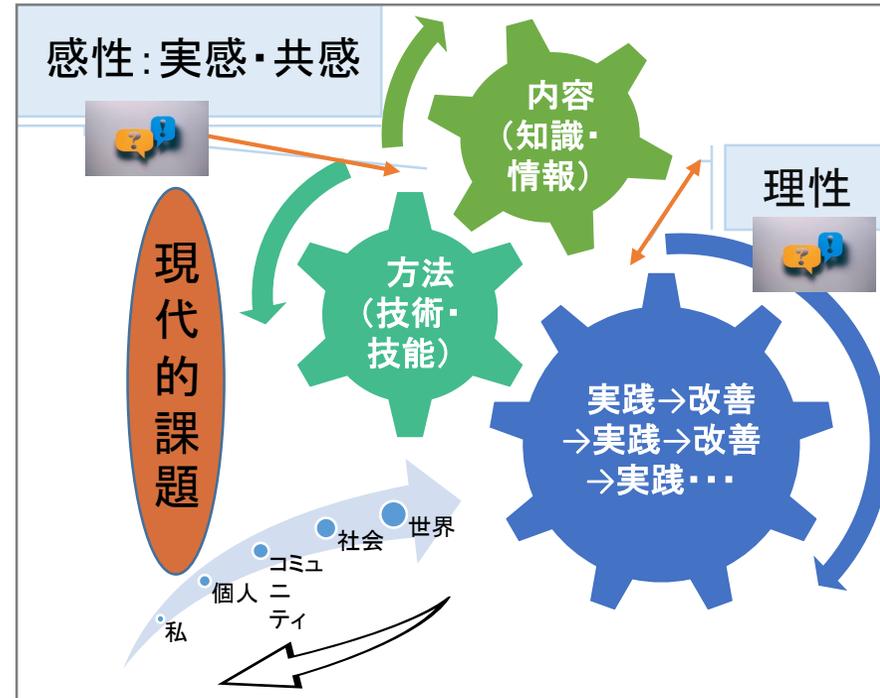


図. 家庭科の授業で育む生活に対する認識と実践のモデル

期待できる成果・評価

教員養成は**次世代を担う子どもたちの資質・能力を育む教員の基盤となる資質・能力の育成を目的**としており、その目的に自ずと二つの「教育の目的」を有する。また、教職コアカリキュラムは、教員の「養成－(採用)－研修」と関連させて展開し、「研修」で培う資質・能力を見据えた教員養成における資質・能力に資する授業やカリキュラムのあり方がもとめられている。

教員養成における「レジリエントな社会の構築」をめざした**生活に対する総合的な認識と実践に関する授業は、変化の激しい現代社会を客観的に見据え、柔軟に対応する資質・能力の育成を期待できる。**

参考URL

日本家庭科教育学会

<https://www.jahee.jp/>